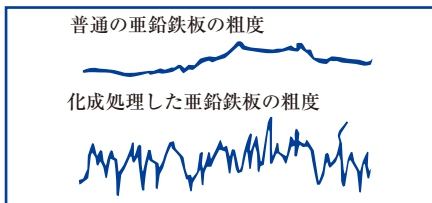


塗装の下地処理

- ◎ 最近カラートタンの普及であまり見受けなくなりましたが、以前のトタン葺の屋根は、トタンをはってから1年程そのまま使用し、表面に白く粉がふいたようになった頃ペンキを塗ったものです。新しい亜鉛の表面と塗料とはなじみが悪く、すぐはがれてしまうので、長年の経験から雨風に下地処理をさせていたわけです。
- ◎ 工場生産では、そんな悠長なことはしておれません。もっと素早く、確実な方法を考えました。亜鉛の表面を化成処理して燐酸塩などの皮膜を作る方法です。この皮膜は亜鉛にも塗料にも密着性がよく、はがれにくい塗装をすることができます。下図は普通の亜鉛鉄板と化成処理した亜鉛鉄板の表面のあらさを比較したものです。横は10倍、縦は1,000倍に拡大してあります。
- ◎ 化成処理を含めて、塗装の前処理は表面には出ませんが、いわゆる縁の下の力持ちで、大変重要な役割を持っています。鉄板に直接塗装したもの、鉄板を前処理して塗装したもの、亜鉛鉄板に直接塗装したもの、亜鉛鉄板を化成処理して塗装したもの、亜鉛めっき層の厚い亜鉛鉄板を化成処理して塗装したもの、これらは新しいうちは**外見上区別が付きません。**
- ◎ 本気で資源節約を考え、最終需要家のためを考えるなら、どれを選ぶかはおのずからきまると思います。

ネグロス電工は絶えず合理的な製品をお届けするように心掛けておりますが、お気づきの不合理な点をどんどん御指摘下さるようお願い致します。



(営業 杉浦)